

オーバーツーリズム（観光客が多すぎる）か？

鎌倉市は「武家の古都鎌倉」「文化都市」「海浜都市」として多くの観光客を受け入れてきた。

それに加えて、近年の日本ブームに乗って海外から日本への観光客（インバウンド）が急速に増加を続け、鎌倉市もその恩恵？に大いに預かっていることは結構なことだ。

と思う反面「過ぎたるは尚及ばざるがごとし」の譬えのように、今や鎌倉市ではオーバーツーリズムによる環境負荷（環境に悪い影響）の増大や市民生活への悪影響が叫ばれてい る。

「観光客が多すぎる」と叫ぶだけではその実態はつかめないし、解決の糸口にならないので、同じような環境にあるほかの都市といくつかの部分を数字で比較して、鎌倉市の実態を知ろうというのが今回の目的である。

比較対象とする都市としては古都として鎌倉と似た観光都市**京都市**と**奈良市**、並びに鎌倉市の東西に隣接する**横浜市**、**藤沢市**を選んで表にまとめたものが下の図表である。

五都市の観光関連比較資料（A. B. C. D. の数字は各市の2018年ホームページより）

	京都市	奈良市	鎌倉市	藤沢市	横浜市
A. 観光客数（千人）	55,000	15,000	21,000	18,600	36,100
B. 人口（千人）	1,470	360	170	430	3,740
A/B	37	42	124	43	10
C. 面積（km2）	830	280	40	70	440
A/C	66	53	525	265	82
D. 人口密度（人口/km2）	1,780	1,290	4,350	6,160	8,600

この表を見て「数字で知る」と「数字で考える」で分析してみた。

A. 数字で知る

- 鎌倉市を訪れる観光客が年間2千万人を超えることに改めて驚かされた。
計算上では日本人の6人に1人が鎌倉を訪れていることになる
- 鎌倉市の人口と面積についてはこじんまりとした都市として好感が持てるが、一方
「工場が少ない」「お寺が多い」「古都保存法」「建築基準」などの特質から「文化都市」として「良いところも、不便なところも」を受容しなければならない状況にある。

B. 数字で考える

- 市の人口、面積に対する観光客の圧倒的な多さは数字が示す通りで、ほかの4都市に比べてけた違いに多いことに驚くほかない。これらの多すぎる観光客の移動によ

る慢性的交通渋滞・大気汚染、住民生活、通勤通学への大きな障害が出ていることはすでに実感している通りだ。観光・環境面で許容できる数字はどれぐらいなのか？

またこの異常な数字や数値を改善できる方法を知りたい。

2. 生活廃棄物（生ごみなど）の処理費用負担については、圧倒的に多い観光客が排出する分まで市民が等しく受け入れなければならないのか？観光客と観光関連事業者（観光受益者）が応分の負担をする制度を考えるべきではないか？
3. 真夏のカンカン照りの午後になると、時々市の広報車が「光化学スモッグ注意報が発せられたので不用の外出は控えて」と言うようなことを放送しに回ってくる。光化学スモッグの発生源を止めないで、住民に危ないから表に出るなというのは本末転倒ではないか？日常的にわが市は汚染状態か？「市民ファースト」はどこに？まずやることは発生源を抑える（しかも早めに）。すなわち自動車の進入・移動の一時的停止、空調温度を下げるなど、予兆が出てきたときに発動すべきであって、日常的な環境汚染に対する感度や対応をもっと緊急的なものにすべきではないか？
4. 鎌倉市の今後の人口推移、さらには少子高齢化が急速に進む中にあって、将来の観光客数の維持増加のみを期待するとしたら上の表で示す異常な数字・数値がさらに増大することは避けられないで早急の対応が必要と考えるが・・・。

以上市政に直接かかわりのない一市民が、たまたま集めたいいくつかの数字を比較したところ、驚くような数字が出てきたので、問題提起としてこの度一文を起こした次第。

終わりに今回観光問題に触れる機会があったので、鎌倉市の観光対応の実態について私が特に感じたことを述べてみたい：

*年間 2 千万人を超える鎌倉に、数年前にやっとまともな新観光案内所ができた。今後の一層の発展と充実を希望したい。

「鎌倉は放っておいても観光客は来てくれる」という気持ちが根底にあるように思う。

鎌倉を案内する資料をもっと充実させ、滞在して過ごさせるほどの魅力を訴えたい。

大仏と八幡宮、小町通りで飲食・買い物を済ませて帰るだけの鎌倉であって欲しくない。

*京都市の市街地観光案内図見ると誠に行き届いたもので、鎌倉より遙かに広く、複雑な地下鉄・バス路線網の中で多くの著名な寺院巡りもこの案内図を見れば「どの交通手段と乗り換え場所」が聞かずに分かるほどのレベルだ。これだけでも素晴らしいと思ったが、それに加えて「遺失物連絡所」の連絡先・電話番号が掲載されているのを見て、観光客への「おもてなしの心がこもっている」と強く感じた。

これは大きな京都市だからできることと思うと大間違いで、観光資源の乏しい地方の中 小都市でも鎌倉に負けない規模の案内所や資料を整えて観光宣伝、サービスに努力しているのは珍しいことではない。

*地方に旅して「どこに住んでいますか？」と聽かれて「鎌倉です」と答えると、必ず返

てくる言葉は「いいとこに住んでますねえ」「羨ましい」だ。

いつまでもそうあってほしいと思うのは鎌倉市民だけではない。

以上